

☆コロナウイルスワクチンについて☆

妊娠中・授乳中のみなさんへ

●妊婦とコロナウイルス感染

妊婦は同世代の妊娠していない女性に比べて、コロナウイルスに感染した際の重症化率が高いといわれています。また、妊娠中に新型コロナウイルスに感染すると、帝王切開率、早産率が高いともいわれています。妊娠高血圧症候群が約 1.3 倍、早産が約 1.8 倍、死産が約 2 倍とそれぞれのリスクが増大しています。また、妊婦の ICU、および新生児の NICU への入院のリスクがそれぞれ 4.8 倍、3.7 倍と増加しています。

●妊娠中のコロナウイルスワクチン接種について

妊婦に対するワクチンの安全性に関するデータは限られますが、安全性の証拠は増えつつあります。ワクチン接種により抗体ができ、コロナウイルスによる重症化を防ぐことができるといわれています。また、妊娠中（主に妊娠後期）にワクチンの接種を受けた人では、赤ちゃんへも抗体が渡されている可能性があるという報告もあります。

日本では妊婦をワクチン接種対象から除外しない、特に人口当たりの感染者が多い地域では積極的な接種を考慮するとしています。現在ワクチンには胎児が奇形になったり、胎児や胎盤へ障害を起こしたりするという報告はありません。2021 年 4 月 21 日にアメリカから発表された、『ワクチンを妊娠期間中に接種した人の追跡調査の報告』では、流産や死産・早産・新生児の低体重・先天奇形の発生率は、今までと比べて差がありませんでした。

また、ワクチンを接種しても新生児の死亡は報告されていません。

また、ワクチンの副反応である発熱や倦怠感などの頻度は非妊娠女性と同程度であるといわれています。

●授乳とコロナウイルスワクチン接種について

ワクチンに関し、授乳中の方については、海外では乳児へのリスクとみなしていないか、接種を控えることまで推奨はしていません。

アメリカではリスクはないとしています。最近の報告では、ワクチン接種により作られた抗体が母乳に移行し、乳児をウイルスから守るのに役立つかもしれないというものもあります。ただし、英国では母乳育児中のワクチンについて完全な安全性データはないことは伝えるべきであるとしています。

~~~~~

以上の情報をもとにいただき、ワクチンを接種するかどうかについてご判断ください。

2021 年 7 月 群馬県立小児医療センター 産科

第 1 報